

第 14 期(2024 年 7 月～2025 年 6 月)事業報告・決算報告・監査報告

事業報告

I. 第 14 期事業の概要

1993 年 6 月 5 日に MELON は設立され、32 年目の事業が終了しました。公益財団法人に移行してからの事業期も第 14 期を終えました。

- 活動の中心であるストップ温暖化センターみやぎ（宮城県地球温暖化防止活動推進センター）では、宮城県から委託事業 1 件、補助事業 1 件を受託したほか、民間団体経由の環境省補助事業 1 件、民間の助成事業 1 件を受託しました。
 - 宮城県「うちエコ診断実施支援事業」は 15 年目となり、IKEA 仙台店やみやぎ生活協同組合に協力を仰いで店頭での診断会などを行い、130 件の目標に対し合計 145 件の診断を実施しました。
 - 宮城県「地球温暖化防止活動推進員(以下、推進員)候補者募集及び養成研修業務」は 8 年目となり、新たに 9 名の推進員が宮城県知事から委嘱を受けました。
 - 環境省「地域における地球温暖化防止活動促進事業」では、「SDGs 環境出前講話」の他、県民の行動変容を促す「みやぎのデコ活推進事業」等を行いました。
 - 4 年目となるエフピコ環境基金の取得により、学校等での SDGs 教育プロジェクトを推進し持続可能な社会の創り手を育てるための学習をすすめました。
- 多賀城市から相談を受け「多賀城市特別環境講座」事業を受託し、講座の企画・運営に協力しました。
- 環境省からの請負事業「東北環境パートナーシップオフィス(EPO 東北)運營業務」は 2010 年度からの請負期間が 15 年目となり、環境省との協働で東北地方 ESD 活動支援センターの運営や東北 6 県の環境活動の HUB として情報発信や自治体・団体等の中間支援の役割を果たしました。
- 情報センターでは、ウェブサイトや SNS 等を活用し多角的な情報発信を行うとともに、会員企業への取材活動や、これまでの情報紙に代わる「MELON NEWS LETTER」のウェブ配信を実施しました。
- 部会・プロジェクトでは、資源化施設の見学会、広瀬川水質調査、食育に関する映画上映会などを実施しました。

【3 年間の実績】

【表 1】

	第 12 期 (2022 年 7 月 ～2023 年 6 月)	第 13 期 (2023 年 7 月 ～2024 年 6 月)	第 14 期 (2024 年 7 月 ～2025 年 6 月)
会員数	460 (入 10・退 29)	442 (入 15・退 33)	407 (入 6・退 41)
経常収益	58,984,194 円	63,055,506 円	55,642,374 円
経常費用	58,057,775 円	61,801,009 円	55,641,645 円
当期経常増減額	926,419 円	1,254,497 円	729 円
一般正味財産期首残高	9,196,043 円	10,050,462 円	11,232,959 円
一般正味財産期末残高	10,050,462 円	11,232,959 円	11,161,688 円
基本金 (指定正味財産)	45,796,958 円	45,796,958 円	45,796,958 円

<p>新たな事業・活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省「令和4年度地球温暖化対策普及啓発事業に関するセミナー運営等業務」を受託 ・地球環境基金「キリバス共和国におけるトロニバイ人材(環境マスター)育成プロジェクト」を実施、2023年3月に現地 NGO・KiriCAN 事務局長とユースリーダーを招へい ・MELON30周年記念事業・連続講座のオープニングイベントとして「MELON フェスタ・みやぎ SDGs 環境アドベンチャー」を開催 ・IKEA 仙台店との連携による「うちエコ診断会」を開始 ・株式会社北洲との連携による WEB への記事執筆開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市「令和5年度仙台市消費者団体活動補助金」を受託 ・WE リーグ「マイナビ仙台レディース・サステナブルデー」にブース出展 ・プロダイバーを講師に招へいし「海から見る地球～気候変動と海洋プラスチック問題」を開催するとともに連動してドキュメンタリー映画「マイクロプラスチックストーリー」上映会を実施 ・みやぎ生協 5 店舗の店頭にて「うちエコ診断会」を開催 ・鳴子温泉にてエネルギーの地産地消を学ぶセミナー「スパッと鳴子温泉 自然エネルギーの取り組みを知ろう」を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・「多賀城市特別環境講座」事業を受託 ・情報センターにて落語で環境問題を伝える講座を開催 ・食育に関する映画「食べることは生きること～アリス・ウォータースのおいしい革命」上映会を開催 ・加美町より依頼を受け「加美町地球温暖化対策実行計画(区域施策編・事務事業編)」に対する意見を提出 ・加美町より依頼を受け「かみまち eco フェス 2024」企画運営に協力 ・東北農政局より依頼を受け「ea TOHOKU FESTA」企画に協力
-----------------	--	--	--

II. 活動内容ごとの報告

1. 脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の形成に関する事業

(1) 普及啓発

資源化施設見学会、公園での樹木観察会、食育映画上映会等を開催
(P3 III主催イベント報告を参照)

(2) 調査研究

広瀬川水質調査、塩竈市浦戸諸島で水環境に関わる文化・歴史や自然について調査活動を実施。

2. 環境を主とする SDGs 教育の推進に関する事業

(1) SDGs 環境出前講話

(P10「みやぎの SDGs 環境学習支援」実施報告 1.を参照)

(2) SDGs 教育プロジェクト

(P12「みやぎの SDGs 環境学習支援」実施報告 2.を参照)

(3) その他の学習の機会の提供

(P4 IV-1-(3)講師派遣、P5 (5)他団体主催イベント・企画の協力等の項を参照)

3. 外部との連携・協働に関する事業

(1) 多様な活動主体との協働

(P4 IV-1-(2)共催・名義後援、P5 (5)他団体主催イベント・企画の協力等の項を参照)

(2) 政策提言や各種会議等への参画

(P4 IV-1-(1)行政・他団体の各種会議への委員派遣等 P5 (4)政策提言・意見発表等の項を参照)

4. 法人運営

(1) 広報活動の強化

- ① MELON の事業及び運営に関する情報等を、MELON のウェブサイトやブログで随時発信を行いました。
- ② MELON 主催イベントや環境に関するイベント等を、メールマガジン「MELON メールニュース」(月 1 回発行)やニュースレター「MELON NEWS LETTER」で発信しました。



150号
(2024年7月)

151号
(2024年10月)

152号
(2025年1月)

153号
(2025年4月)

- ③ 幅広い年代に対応できるよう、情報紙、Facebook や Instagram 等の様々な媒体の中から、費用対効果に見合ったツールを選択し、活用して情報発信を行いました。
- ④ MELON 会員団体訪問記としてヤマト運輸株式会社宮城主管支店取材した記事を MELON ウェブサイトで発信しました。

(2) 職員の労働環境の改善

- ① 昨今の物価高騰等による家計負担の増加を鑑みるとともに、財政的に困難な状況にある MELON を職員全員で支え発展させるために、2025 年度の雇用契約にあたり給与引上げを行いました。
- ② 有給休暇の取得や育児・介護による休業・時短制度など、労働基準法で定められた労働者の権利については就業規則で既定し活用しやすい職場環境の醸成に努めました。
- ③ ワークライフバランスや環境負荷を考慮し在宅勤務の活用にも努めました。

5. 組織ごとの個別報告

- (1) ストップ温暖化センターみやぎの活動 (P9 参照)
- (2) EPO 東北の活動 (P18 参照)

III. 主催イベント報告

【表 2】

	日時	タイトル	場所	講師	担当/部会	参加者数
1	2024年 7月13日(土) 12:00~15:30	第28回会員と市民のつどい MELON フェスタ 「まるごと“MELON”な暮らし」	khb東日本 放送ぐりり ホール	渡邊千恵子氏 (尚綱学院大学教授、 MELON 理事)	MELON	200名
2	8月9日(金) 12:15~15:35	ごみのゆくえを見てみよう! ワケルくんバスで行く施設見学会	松森工場 松森資源化 センター	—	4R 推進 部会	37名
3	9月14日(土) 14:00~16:00	落語で知る環境問題	花座	寢床家道楽氏 (アマチュア落語家)	情報 センター	35名
4	11月10日(日) 9:00~15:00	寒風沢島散策	寒風沢島	内海信吉氏	水部会	15名
5	11月16日(土) 10:00~11:30	七北田公園 木の観察会	七北田公園	佐藤権一氏 (公益財団法人仙台市公園 緑地協会、七北田公園都 市緑化ホール緑の相談員)	みやぎ里 山応援団	20名
6	12月1日(日) 10:00~17:00	「食べることは生きること～アリス・ウォ ータースのおいしい革命～」 映画上映会とトーク	エル・ソーラ 仙台	鴨志田めぐみ氏・ 三浦隆弘氏・ 斉藤緑里氏	MELON	100名
7	2025年 4月27日 9:30~15:00	塩竈市浦戸諸島 朴島散策とだんべこ船から 海水温上昇の状況を見る会	朴島	内海信吉氏	水部会	14名
合 計					7回	421名

IV. 協働取り組みの推進

1. 委員派遣・共催・名義後援・講師派遣・意見発表等について

(1) 行政・他団体の各種会議への委員派遣等

【表 3】

国	東北地域エネルギー・温暖化対策推進会議構成員
宮城県	環境審議会委員、みやぎゼロカーボンチャレンジ 2050 県民会議委員
仙台市	環境審議会委員、土地利用調整審議会委員、E-Action 実行委員会委員、環境配慮事業者認定委員会委員、アメニティせんだい推進協議会委員、廃棄物対策審議会委員、杜の都の市民環境教育・学習推進会議委員、公園緑地協会評議員、仙台市食育推進会議委員、仙台市協働まちづくり推進会議委員
他市町村	多賀城市環境審議会委員
他団体	特定非営利活動法人 気候ネットワーク理事・運営委員、消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ委員

(2) 共催・名義後援

【表 4】

	開催日	名称等	内容	主催
1	2024 年 9 月 10 日	カーボンニュートラルに向けた 省エネ推進セミナー	共 催	NPO 法人 環境会議所東北
2	12 月 3 日	脱炭素経営に関するセミナー(宮城)	共 催	特定非営利活動法人環 境ネットやまがた
3	2025 年 1 月 18 日	徳島県神山町の先進事例から学ぶ	共 催	なとり農と自然の がっこう

(3) 講師派遣

【表 5】

	実施日	内容	対応者	主催	参加人数
1	2024 年 7 月 24 日	リメイクキャンドル作り講師	吉田美緒 チーフ	南光台六丁目北 町内会	15 名
2	8 月 1 日	打ち水じゃ！in 毘沙門天王祭	亀崎英治事務 局員、早川昌 子事務局員	仙台市荒町児童館	28 名
3	9 月 25 日	リメイクキャンドル作り講師	吉田美緒 チーフ	榴岡小学校 社会学級	12 名
4	10 月 11 日	「地域団体交流会 2024」での 活動紹介	早川昌子 事務局員	泉館山高校	40 名
5	12 月 8 日	リメイクキャンドル作り講師	吉田美緒 チーフ	堤町子ども会	15 名
6	2025 年 1 月 9 日	ホライゾン学園仙台小学校 授業「テーマ:地球温暖化」	木立芳行 推進員	ホライゾン学園仙台 小学校	38 名

7	2月27日	～気候変動による災害リスクの増大～	西本正文 推進員	太白区郡山コミュニティセンター	50名
8	3月19日	富谷市地球温暖化対策職員研修会	早川昌子 事務局員	富谷市 宮城県	50名
9	5月8日	宮城県環境教育リーダー及びこども環境教育出前講話講師研修会	吉田美緒チーフ 亀崎英治 事務局員	宮城県	24名
10	6月19日	榴ヶ岡市民センター老壮大学	西本正文 推進員	榴ヶ岡市民センター	30名
				合計	10回 302名

(4) 政策提言・意見発表等

【表6】

	提出日	内容	提出先
1	2024年 7月22日	水循環基本計画(案)に対する意見	内閣官房 水循環政策本部事務局
2	11月28日	加美町地球温暖化対策実行計画(区域施策編・事務事業編)(案)に対する意見	加美町 地球温暖化対策室

(5) 他団体主催イベント・企画の協力等

【表7】

	開催日	名称等	参加内容	主催団体	参加人数 (ブース来場数)
1	2024年 7月27-28日	TBC 夏祭り	ブース出展	tbc 東北放送	60,000名 (1,000名)
2	7月27日	たがじょう環境研究所 ～南極支部～	企画・運営協力	多賀城市	70名 (70名)
3	9月1日	エコフェスタ 2024	ブース出展	仙台市	12,500名 (500名)
4	8月17日	楽しみながらゼロカーボン!	ブース出展	富谷市	未発表 (20名)
5	9月8日	かみまち eco フェス 2024	企画・運営協力	加美町	200名 (200名)
6	9月29日	ぐりりパーク「スマートエネルギー住宅普及啓発イベント」	ブース出展	宮城県	未発表 (200名)
7	10月5日	魅力いっぱい! 交通フェスタ 2024	ブース出展	仙台市	未発表 (500名)
8	10月12日	仙台長町紙芝居フェスティバル	紙芝居上演	仙台長町紙芝居フェスティバル実行委員会	未発表 (30名)
9	10月26日	スマートエネルギー住宅普及啓発イベント	うちエコ診断	宮城県	未発表 (5名)
10	11月3日	環境フェア 2024	ブース出展	石巻市	未発表 (500名)
11	11月3日	気仙沼市エコフェスタ 2024	ブース出展	気仙沼市	319名 (100名)

12	11月9日	市民活動わくわくフェスタ 2024in 関上	ブース出展	市民活動わくわくフェスタ 2024in 関上 実行委員会	未発表 (30名)
13	11月17日	スマートエネルギー住宅普及啓発イベント	ブース出展	宮城県	未発表 (30名)
14	2025年 1月18日	みやぎゼロカーボン大作戦	ブース出展	宮城県	1,405名 (300名)
15	2月9日	イーとうほくフェスタ ea TOHOKU FESTA	企画協力	農林水産省 東北農政局	未発表
16	3月8日	環境フォーラムせんだい (仙台防災未来フォーラム内開催)	ブース出展	仙台市	未発表 (200名)
17	4月26日	令和7年度「新緑祭」	ブース出展	仙台市	未発表 (70名)
18	6月22日	SDGs マルシェ 2025	ブース出展	尚綱学院大学	未発表 (50名)
			合計	18回	参加人数：74,494名 (主催者公式発表分のみ) MELON ブース来場者：3,575名

(6) 第14期末現在 MELON が加入している団体

【表8】

加入団体	加入形態	会費(口数)
認定 NPO 法人気候ネットワーク	正会員(団体)	50,000円(10口)
NPO 法人地球環境市民会議(CASA)	会員(団体)	10,000円(2口)
一般社団法人地球温暖化防止全国ネット	正会員	40,000円(1口)

2. 第28回 MELON 会員と市民のつどい MELON フェスタ

- 第28回会員と市民のつどい MELON フェスタは2024年7月13日に MELON30周年クロージングイベントとして開催。

3. 委託事業・助成金等

【表9】

事業名	交付者	事業科目	事業期間
令和6年度東北環境パートナーシップオフィス運営業務	環境省東北地方環境事務所	請負事業	2024年4月1日～ 2025年3月31日
令和6年度うちエコ診断実施支援事業補助金	宮城県	補助金	2024年6月13日～ 2025年2月4日
令和6年度地球温暖化防止活動推進員候補者募集及び養成研修業務	宮城県	委託事業	2024年6月17日～ 2024年2月3日

令和6年度地域における地球温暖化防止活動促進事業	一般社団法人地球温暖化防止全国ネット	補助金	2024年6月1日～ 2025年3月20日
多賀城市特別環境講座	多賀城市	委託事業	2024年5月14日～ 2024年7月31日
令和6年度エフピコ環境基金	株式会社エフピコ	助成金	2024年4月1日～ 2025年3月31日

V. 評議員会、理事会、監事会運営

1. 評議員会（3回開催）

【表10】

	日程	主要議題
第1回	2024年 8月26日	第13期事業報告・決算報告および監査報告の件他
第2回	11月18日	第14期事業の進捗報告他
第3回	2025年 6月16日	第14期補正予算の件、第15期事業計画案・予算の件、理事定数の変更と関連する定款の一部改定の件他

2. 理事会（4回開催）

【表11】

	日程	主要議題
第1回	2024年 8月5日	第13期事業報告・決算報告および監査報告の件他
第2回	11月15日	基本財産運用についての提案の件他
第3回	2025年 4月15日	監督官庁(宮城県)の公益法人立入検査結果に対する対応の件、第15期役員会日程の件、就業規則改定の件、第15期事業計画第一次案の件他
第4回	6月2日	第14期補正予算の件、第15期事業計画第二次案・予算の件、会員の種別及び会費の改定と関連する規則の一部改定の件、第14期第3回理事会で議決した就業規則改定の一部取り消し、就業規則の一部改定の件他

3. 監事会（1回開催）

【表12】

	日程	主要議題
第14期監事会	2025年 7月25日	第14期・理事の業務執行状況並びに決算について監査

VII.維持会員の状況および部会・プロジェクト、事務局体制、ボランティアスタッフの活性化について

1. 維持会員の状況

第14期末の会員数は法人52(入会1退会2)・任意団体8(入会1退会0)・個人347(入会4退会39)合計407で前期末からマイナス35となり、会員増は引き続きの課題です。

【表13】

会費の 納入状況	第14期の会費予算5,700,000円に対し、会費納入額5,771,000円となりました。
寄附の 状況	第14期合計で1,330,854円の寄附をいただきました。内訳は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ みやぎ生活協同組合からみやぎ生協 MELON 協力商品券売上による寄附額 1,100,271円 ◆ 株式会社日専連ライフサービスから MELON 協力商品券売上による寄附額 69,583円 ◆ 株式会社日本旅行東北からの寄附額 50,000円 ◆ 株式会社ジェイアール東日本企画からの寄附額 50,000円 ◆ 株式会社北洲からの寄附額 30,000円 ◆ 他個人5名から合計寄附額 31,000円

2. 部会・プロジェクト体制について

第14期の部会・プロジェクトの長は下記の通りでした。

【表14】

部会・業務	部会長
ストップ温暖化センターみやぎ運営委員会	長谷川公一
情報センター運営委員会	石垣政裕
水部会	山田一裕
食部会	冬木勝仁
4R推進部会	根岸誠
MELON cafe	なし
みやぎ里山応援団	今野勇
エコシティ仙台プロデュースプロジェクト	村松淳司

3. 事務局体制について

みやぎ生活協同組合、宮城県農業協同組合中央会、宮城県漁業協同組合、宮城県森林組合連合会の事務局体制は変わりません。

事務総長を除いた専任事務局スタッフは、当初スタッフ13名でスタートし、期中に2名退職1名採用で、現在スタッフ12名となっています。

4. ボランティアスタッフの活性化について

(1) 「ボランティアポイント制度」

ボランティアスタッフの活用に力を入れるための条件整備の一環として、2003年度6月より導入した本制度(MELONの活動にボランティアとしてご参加いただいた会員の皆様に活動参加の実費の一部補填する意味で、1回のボランティア参加に1個のスタンプを押し、スタンプが5個たまった時点で1,000円分のMELON協力商品券と交換するもの)を第14期も継続運用しました。

- 第14期ボランティアポイント制度の活用状況
 スタンプ5個到達枚数(MELON商品券交換数) 2枚(第13期8枚)
 スタンプ5個到達者数(同一人物が何回到達しても1人と計上) 2人(第13期6人)

第 14 期ストップ温暖化センターみやぎ活動報告

1. 概要

委託補助事業においては、環境省や宮城県の事業として 4 件受託し、全て滞りなく完了することができました。

「地域における地球温暖化防止活動促進事業」では、「デコ活」を通して 2050 年カーボンニュートラル及び 2030 年度温室効果ガス削減目標の実現に向けて、県民の行動変容、ライフスタイル変革を後押ししました。

2. 活動内容

(1) 委託・補助事業

① 地球温暖化防止全国ネット補助事業 地域における地球温暖化防止活動促進事業

地球温暖化対策の推進に関する法律（平成 10 年法律第 117 号）に基づき、地球温暖化防止活動推進センターの基盤となる活動を推進する事業として、3 つの業務を行いました。

本事業の主軸となる「みやぎの SDGs 環境学習支援～SDGs 環境出前講話×SDGs 教育プロジェクト」（「みやぎの SDGs 環境学習支援実施報告」を参照）の他、県民に向け行動変容を促す「みやぎのデコ活推進事業」「自治体、推進員等との CO₂ 削減連携事業」を実施。事業において CO₂ 削減見込み量は、約 1,305t・CO₂、行動変容人数は 4,086 人でした。



SDGs 環境出前講話
矢本西小学校の様子

② 宮城県補助事業 うちエコ診断実施支援事業

昨年度に引き続き、企業の営業担当向けや IKEA 仙台店の他、みやぎ生協 MoreCoop でのうちエコ診断会を実施しました。4 月から 2 月までの期間中、130 件を目標に診断を行いました。結果 145 件を診断し、事後アンケートを元に CO₂ 削減量を算出した結果約 22t・CO₂ の削減量となりました。

③ 宮城県委託事業 地球温暖化防止活動推進員候補者募集及び養成研修業務

前期に引き続き 7 年目の事業として実施しました。本業務は推進員の拡大を図るため、推進員に必要な地球温暖化の基礎知識や普及啓発の手法等を習得するための養成研修を実施しました。15 名の応募があり計 2 回の研修を実施しました。令和 7 年 4 月に 9 名が宮城県知事より委嘱を受けました。

④ エフピコ環境基金 SDGs 教育プロジェクト

「みやぎの SDGs 環境学習支援実施報告」参照

(2) 地域イベント

「他団体主催イベント・企画の協力等」参照

(3) メディア報道及び協力

機関紙「報道。掲載一覧」参照

(4) 行政・他団体との連携

行政主体の会議やイベント等に参加し連携しました。

(5) ストップ温暖化センターみやぎ情報連絡会

第 14 期中に「ストップ温暖化センターみやぎ運営委員会」のあり方を見直し、事業に関する情報交換を行う「ストップ温暖化センターみやぎ情報連絡会」と改め開催しました。

3. まとめ

第 14 期では、「デコ活」を中心に環境教育に力を入れて実施し、多くの子ども・県民に対して行動変容の後押しを行うことができた授業の様子などをウェブサイトや SNS で広く周知することもできました。

第 15 期では委託補助事業を着実に実施するとともに、より効果的な事業を実施するため推進員をはじめ様々な主体との連携をさらに深め活動を行います。また、行政およびその他組織の委託・助成・請負事業等の獲得に向けて努力します。

第 14 期「みやぎの SDGs 環境学習支援」実施報告

ストップ温暖化センターみやぎ（MELON 内）では、持続可能な社会の創り手を育成するために「みやぎの SDGs 環境学習支援」として、二つの事業を展開してきた。SDGs 環境出前講話では、宮城県内の多くの小中学校、高校等で講話を行い、SDGs 教育プロジェクトでは、特定の小学校の環境や防災の学習を継続して支援した。以下、2024 年度の取り組みである。個々の活動は、ウェブサイト「みやぎの SDGs 環境学習支援」において詳しく報告を行っている。

1 SDGs 環境出前講話（主に環境省・地域における地球温暖化防止活動促進事業）

(1) 2024 年度の SDGs 環境出前講話

キリバス編と南極編は今までと変わらないが、気候変動編を環境・防災編に変更して、7 種類の講話を用意した。さらに、2024 年度から企業による二つの講話を追加した。

7 月上旬、宮城県環境政策課及び県教育委員会を通して、県内の全小中学校、高校にチラシを配布して募集したところ、8 月上旬には定数に達した。

2024 年度 SDGs 環境出前講話

	講話	講師	分	対象	人数	形式
1	キリバス編	ケンタロ・オノ氏	90	小 4～	多人数可	講話
2	南極編	石井洋子氏	90	小 4～	多人数可	講話
3	環境・防災編					
	気候変動	コミュニケーターチーム（推進員）	45	小 4～	多人数可	講話
	食品ロス	コミュニケーターチーム（推進員）	45	小 4～	多人数可	講話
	エネルギー	MELON スタッフ	45	小 4～	クラス	講話、WS
	海洋ごみ	MELON スタッフ	45	小 4～	クラス	講話、WS
	防災・災害食	佐藤美嶺氏	45	小 4～	クラス	講話、WS
	リサイクル	株式会社エフピコ社員	45	小 4～6	多人数可	講話
	環境・運輸	ヤマト運輸株式会社社員	45	小 4～6	クラス	講話、WS

(2) 講話の実施校

2024 年度は、最終的にキリバス編 15 校、南極編 10 校、環境・防災編 10 校、計 35 校（新規 16 校・継続 19 校）で実施して、受講人数は計 2,690 名となった。

2024 年度 SDGs 環境出前講話の校種・学年別実施校数（校）

校種・学年	キリバス編	南極編	環境・防災編	計
小学校 4 年	2	1	3	6
小学校 5 年	5	2	4	11
小学校 6 年	3	5	2	10
中学校	4		1	5
高校	1			1
その他		2		2
計	15	10	10	35

その他は、特別支援学級及び支援学校高等部の 2 校である。環境・防災編 10 校の内訳は、SDGs1 校、気候変動 2 校、リサイクル 2 校、運輸 2 校、防災 2 校、3 テーマ同時が 1 校だった。新たに設けた企業による講話は、計 4 校で実施することができた。

小学校に比べて中学校は 5 校と少なかったが、全校生徒による講演会となった学校が 3 校あるなど、計 861 名が受講した。同一校で二つの講話を申込んで行う場合もあった。

(3) 講話の実際

すべての講話にスタッフが同行することにより、講師と学校をつなぐ役目を果たすとともに、講話を聞く児童・生徒の反応を見ることができた。

① キリバス編

講師は、引き続き一般社団法人日本キリバス協会代表理事のケンタロ・オノ氏である。校種は小学校、中学校、高校と多岐に渡った。40名弱での教室で行う場合もあれば、体育館に全校生徒が集まっての講演会など、あらゆる人数に対応した。

ケンタロ・オノ氏には講話時間や発達段階に応じて内容を変えてもらったため、どの学年の児童・生徒にも分かりやすい講話となった。心に響く講話でもあり、中には涙を流す小学生や講話後に次々と相談に来る高校生などが見られた。「ぜひ行動に移してください。」という最後のメッセージが、その後の具体的な行動を促すウェブ教材の使用につながった。

仙台市立北六番丁小学校 5年で行ったキリバス編の様子は、宮城県内の小学校すべてに配布されるエコファミリー新聞に掲載された。



キリバス編～鶴が丘中学校

② 南極編

講師は、引き続き第49次日本南極地域観測隊の石井洋子氏（推進員）である。今年度は小学校での開催が多かった。南極の美しい映像をはっきりと見られるような場の設定を各学校にお願いした。

キリバス編と同様に、学年の発達段階に応じて内容を変えてもらい、どの学年の児童にも分かりやすい講話となった。講話の最後の「はじまりのはじまり」という投げかけが、その後の行動を促すウェブ教材の使用につながった。



南極編～沼部小学校

③ 環境・防災編

2024年度は、気候変動、食品ロス、海洋ごみ、再生可能エネルギー、リサイクル、運輸、防災の7種類の講話を用意した。

全校生徒が参加した中学校での気候変動の講話では、コミュニケーターチームの佐藤俊彦氏（推進員）



エフピコ～上杉山通小学校

が講師となり、気候変動の影響や原因、将来予測などを具体的な資料を示しながら説明

し、その後のレポート作りにも役立った。小学校での気候変動の講話では、MELONスタッフが講師となって気候変動の話をした後、児童各自のタブレット端末でウェブ教材を使用して具体的な行動の削減効果を実感させた。



ヤマト運輸～矢本西小学校

ヤマト運輸株式会社による運輸の講話は 5 年社会科の単元、株式会社エフピコのリサイクルの講話は 4 年社会科の単元につながった。

防災士の佐藤美嶺氏（MELON 理事）による防災の講話は、後半のワークショップによって家族の災害食を考えるきっかけとなった。

気候変動、食品ロス、海洋ごみの 3 テーマを同時に行うという初の試みとなった石巻市立蛇田小学校 4 年での講話の様子は、地元の石巻日日新聞に紹介された。

(4) 年度末アンケートより

年度末に先生方を対象としたアンケートを行った。全員の先生から講話を行ってよかったとの回答を得た。1 回限りの講話だが、その前後に学習を行うなど、多くの学校で学びの中に講話が位置付けられていることが分かった。たくさんの先生方が講話の継続を希望しているので、賛同を得ながら次年度につなげていきたい。

※SDGs 環境出前講話アンケート結果（先生対象）→



2 SDGs 教育プロジェクト（主にエフピコ環境基金）

(1) 2024 年度の SDGs 教育プロジェクト

2024 年度は継続校 4 校、新規の学校 2 校、市民センターと児童館 2 団体、計 8 団体、442 名を継続して支援した。

2024 年度 SDGs 教育プロジェクト支援校・団体

学校・団体	学年	人数	テーマ	主な支援
仙台市立芦口小学校	5 年	63	環境・防災	グリーンカーテン
仙台市立長命ヶ丘小学校	5 年	53	地域共生	グリーンカーテン
	6 年	60	自分づくり	出前授業
仙台市幸町市民センター	全	41	SDGs	グリーンカーテン
仙台市長町南児童館	全	※1	グリーンカーテン	グリーンカーテン
仙台市立八木山小学校	5 年	97	気象・防災	出前授業
	教員	※2	防災	教員研修会
仙台市立北六番丁小学校	5 年	53	川環境	出前授業、水質調査
仙台市立岩切小学校	特支	19	SDGs	出前授業
仙台市立鹿野小学校	5 年	56	環境・防災	出前授業、助言

※1 児童への直接のかかわりはなし ※2 教員の人数は約 25 名

(2) 外部連携先

学校・団体への支援は、MELON スタッフが行うことに加えて、企業・団体等の協力を得ながら進めた。2024 年度は、「小学校で語り部活動を行いたい。」という大学生の希望を実現することができた。

2024 年度 SDGs 教育プロジェクトの協力団体等

行政・企業・団体等	テーマ	主な支援
コミュニケーターチーム（推進員）	気候変動、食品ロス	出前授業
シンプル&スローライフの会	グリーンカーテン	出前授業、苗、ヘチマたわしの提供、麻縄の設置と撤去
認定 NPO 法人まちづくりスポット 仙台	まちづくり、地域活性	グリーンカーテンの世話、ゲストティーチャー、イベント協力
ブランチ仙台・各テナント		グリーンカーテンの世話

東北工業大学・山田一裕教授	水環境	出前授業
東北放送 tbc 気象台・星野誠氏	天気予報、防災	出前授業
せんだい E-Action 実行委員会 (仙台市環境局環境共生課)	環境全般	種の提供、サーモグラフィの貸出、伊達武将隊の派遣
宮城教育大学 3年・庄子さくら氏	防災・語り部活動	出前授業

(3) 支援の実際

① 仙台市立芦口小学校 5年～継続校

昨年度に続いて、総合的な学習の時間で「環境と防災」をテーマに学習するので支援してほしいという相談があり、主にグリーンカーテンの取り組みを支援した。土づくりから始めたことなどにより、昨年よりも大きく成長した。子供たちは、毎日の水やりなどの世話をを行った。

- ・ 出前授業「気候変動と暮らし」(コミュニケーターチーム)
- ・ 出前授業「ヘチマ博士のお話」(シンプル&スローライフの会)
- ・ 出前授業「グリーンカーテンの効果を調べよう」(MELON スタッフ)
- ・ 出前授業「ウェブ教材を使ってみよう」(MELON スタッフ)
- ・ 出前授業「命のバトン～ヘチマの種取り」(シンプル&スローライフの会)
- ・ グリーンカーテンの支援

プランター準備、土づくり、種と苗の提供、麻縄の設置と撤去、水やり、追肥、データロガーによる温度計測、サーモグラフィによる計測、ヘチマたわしのプレゼントなど



芦口小学校のグリーンカーテン

② 仙台市立長命ヶ丘小学校 5年～継続校

昨年度に続いて、まちづくりスポット仙台から商業施設のランチ仙台でグリーンカーテンに取り組みたいという相談を受けて長命ヶ丘小学校に提案したところ、連携して取り組むことになった。グリーンカーテンはランチ仙台南側の壁の他、賛同してもらった3か所の店舗にも設置した。土が少ない花壇でなく深めのプランターに植えて、まちづくりスポット仙台や各テナントの方々による毎日の水やりによって、昨年より大きく成長した。「グリーンカーテンを広めたい」という子供たちは、ポスターを制作してランチ仙台に掲示したり PR 動画も撮影したりした。「種の贈呈式」と「グリーンカーテンの効果を調べよう」の出前授業では、伊達武将隊に来てもらい、テレビ局の取材も入った。

- ・ 出前授業「種の贈呈式」(せんだい E-Action 実行委員会、MELON スタッフ)
- ・ 出前授業「ヘチマ博士のお話」(シンプル&スローライフの会)
- ・ 出前授業「グリーンカーテンの効果を調べよう」(せんだい E-Action 実行委員会、MELON スタッフ)
- ・ 出前授業「命のバトン～ヘチマの種取り」(シンプル&スローライフの会)



ランチ仙台のグリーンカーテン

- ・ グリーンカーテンの支援

プランター準備、土づくり、種と苗の提供、麻縄の設置と撤去、水やり、追肥、データロガーによる温度計測、サーモグラフィによる計測、ソーラー発電による LED ライトの設置、ヘチマたわしのプレゼントなど

③ 仙台市立長命ヶ丘小学校 6年～継続校

長命ヶ丘小学校 6年では総合的な学習の時間で「自分づくり」をテーマに学習を行うということで、関連する二つの講話を行った。

- ・ SDGs 環境出前講話「南極ってどんなところ」(第 49 次日本南極地域観測隊・石井洋子氏)
- ・ 出前授業「震災と防災」(宮城教育大学 3 年・庄子さくら氏)

④ 仙台市幸町市民センター～新規

かつて取り組んだグリーンカーテンを復活させたいという相談を受けて、支援することになった。ネットを建物の壁に取り付けるのは困難だったので、花壇にアーチ型のトンネルを設置した。児童館やガールスカウトの子供たちが世話をした。種から育てたアサガオとゴーヤは大きく成長して、トンネルを覆いつくした。

- ・ 出前授業「SDGs ってなに？ & SDGs カルタ」(MELON スタッフ) ※児童館の子供たちを対象
- ・ グリーンカーテンの支援
土づくり、アーチ型トンネルの設置、放射温度計とサーモグラフィの貸出など



市民センターのグリーンカーテン

⑤ 仙台市長町南児童館～新規

子供たちが過ごす部屋に西日が当たって暑いので、グリーンカーテンを設置したいという職員の方々の長年の願いに応えるため、支援することになった。ネットをかける場所がなかったので、ガラス面に吸盤型フックを取り付けた。こちらも大きく成長して、カーテンの役目を果たすことができた。児童館の子供たちと直接関わることはなかったが、エアコンを控えて涼しく過ごすことができたとのことだった。

- ・ グリーンカーテンの支援
プランターとネットの設置、土づくり、水やり、追肥、放射温度計とサーモグラフィの貸出など



児童館のグリーンカーテン

⑥ 仙台市立八木山小学校 5年～継続校

理科や総合的な学習の時間で「気象と防災」をテーマに学習するので支援してほしいという相談があり、外部の協力を得ながら支援を行った。みやぎ生協八木山店での校外学習の様子は、東北放送テレビで放映された。

- ・ 出前授業「お天気講座」(tbc 東北放送・星野誠気象予報士)
- ・ 出前授業「おいしく食べて災害に備えよう」(みやぎ生協生活文化部、みやぎ生協地域代表理事)
- ・ 校外学習「防災リュックをつくろう」(みやぎ生協八木山店、みやぎ生協生活文化部、みやぎ生協地域代表理事)



みやぎ生協での防災リュックづくり

⑦ 仙台市立八木山小学校教員～継続校

八木山小学校の研究主任の先生から相談を受けて、「防災」をテーマとした夏の研修会を行った。前半は、MELON スタッフが防災学習のカリキュラムとプログラムについての話をした。後半は、防災士の佐藤美嶺氏(MELON 理事)に「災害後の生活に備える」をテーマに話をしてもらった。

⑧ 仙台市立北六番丁小学校 5年～継続

総合的な学習の時間で学区内を流れる梅田川を取り上げた環境学習を行いたいという相談を受けて、3年連続で支援することになった。

- ・ 出前授業「梅田川オリエンテーション」(MELON スタッフ)
- ・ 出前授業「川を見る、調べる」(東北工業大学・山田一裕教授)
- ・ 校外学習「梅田川観察調査活動」(MELON スタッフ)
- ・ SDGs 環境出前講話「国がなくなる？キリバス共和国と地球温暖化」(ケンタロ・オノ氏)
- ・ 出前授業「ウェブ教材を使ってみよう」(MELON スタッフ)
- ・ SDGs 環境出前講話「南極ってどんなところ」(第49次日本南極地域観測隊・石井洋子氏)



梅田川観察調査活動

⑨ 仙台市立岩切小学校ひまわり学級～新規

SDGsに取り組みたいという相談を受けて、支援していった。ひまわり学級には1年から6年まで在籍しているので、できるだけ内容が伝わるように資料を整えて授業を行った。

- ・ 出前授業「SDGsってなに？&SDGsカルタ」(MELON スタッフ)
- ・ 出前授業「地球の未来をみんなの力でかえていこう」(MELON スタッフ)
- ・ SDGs 環境出前講話「南極ってどんなところ」(第49次日本南極地域観測隊・石井洋子氏)

⑩ 仙台市立鹿野小学校 5年～新規

総合的な学習の時間で子供たちが様々な環境問題を調べて、CMを制作しているので助言をもらいたいという相談があり、支援を行った。テーマは、ごみ、外来種、森林伐採、水質汚染、大気汚染、地球温暖化、土壌汚染の七つである。それぞれのCMのプレゼン資料に対して、よい点と改善のポイントをまとめて子供たちに伝えた。また、2学期からは「防災」をテーマに学習するというので、導入に出前授業を提供した。



語り部の活動

- ・ CM制作のゲストティーチャー（MELONスタッフ4名）
- ・ CM発表のゲストティーチャー（MELONスタッフ）
- ・ 出前授業「震災と防災」（宮城教育大学3年・庄子さくら氏）

(4) 年度末アンケートより

年度末に関係者の方々を対象としたアンケートを行った。全員から支援が役立ったとの回答を得るとともに、児童生徒の意識・行動変容が見られたとのことだった。たくさんの方々から支援の継続を希望しているので、賛同を得ながら次年度につなげていきたい。



※SDGs教育プロジェクトアンケート結果（関係者対象） →

3 小冊子とウェブ教材

出前講話では、「よい話を聞いた」で終わらせることなく、その後の学習につなげていくことが課題だった。そこで、MELONが制作した小冊子「SDGsと地球温暖化」を講話実施校の全児童・生徒に配布して、その後の調べ学習を促していった。当方オリジナルのウェブ教材「わたしたちのSDGsライフスタイル～家庭でできる54個の行動」は、小中学生向けに開発した学習ツールである。各自のタブレット端末を使い、家庭でどんな行動をすればどれくらいの効果（CO₂削減量と節約金額）が得られるかを知ることができる。出前講話の実施校には、講話後にウェブ教材を使用するようにお願いした。SDGs教育プロジェクトの支援校でも使用してもらった。

《ウェブ教材》

「わたしたちのSDGsライフスタイル」 (<https://stopondanka.sakura.ne.jp/>)

今年度から画面に「送信」ボタンを設置したことにより、CO₂削減量と節約金額のデータ、使用した感想を回収することができるようになった。結果は以下の通りである。

- ・ 回収人数 1,396名
- ・ みなしCO₂削減量計 1,424t332.3kg-CO₂（1家庭あたり1,020kg-CO₂）
- ・ みなし節約金額計 1億213万4,520円（1家庭あたり73,162円）
- ・ CO₂削減の54個の具体的な行動と選択した人数を見ると、すぐにでも取り組めそうなものが多く選ばれて、意味がよく分からなかったり自分だけではできそうになかったりするものはあまり選ばれなかった。

- ・回収したデータはその都度集計して、学校に結果を伝えた。子供たちに「みんなで取り組めば大きな効果がある」ことに気付かせ、実際の行動を促した。第9回気候変動教育モデルづくり研究会（JCCCA主催）においてウェブ教材の事例発表を行った。

《ウェブ教材使用の感想例》

- ・自分でできるのもあれば家族で話し合いながらするのもあったので家族と話しながら取り組みたいと思いました。（柴田町立船岡小学校 5年）
- ・節水シャワーヘッドを使いたくなって親に交渉しました！そしたら考えてもらえた…。（仙台市立芦口小学校 5年）
- ・いつもの生活を振り返ってちょっとしたことを気にすれば約 26,000 円減ることがわかりました。（岩沼市立岩沼中学校 1年）
- ・地球温暖化は非常に深刻な問題だとわかりました。また、深刻であると同時に、とても取り組みやすい問題であることがわかりました。今回の教材で学んだこと以外にも、日常の中で取り組めるものはたくさんあります。それらをこまめに考え実行し、地球のためになる行動をしたいです。（仙台青陵中等教育学校 1年）



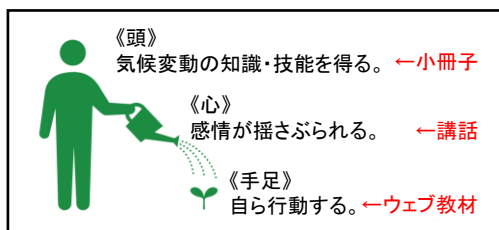
ウェブ教材～美里町立北浦小学校

4 振り返りと今後に向けて

SDGs 環境出前講話は宮城県内の学校で広く行い、SDGs 教育プロジェクトは仙台市内の学校・団体を深く支援してきた。

9年目となったSDGs 環境出前講話は、今まで延べ234校で実施して約22,000名が受講した。実際の行動変容はあくまで家庭や学校次第だったが、講話で感情を揺さぶったり知的好奇心を高めたりした後、小冊子で調べ学習を支援、ウェブ教材で行動を促すというプロセスを創ることができた。次年度は、新たな講話のメニューを加えて、より防災関係にも対応していきたい。

4年目となったSDGs教育プロジェクトは、仙台市内の小学校・団体を今まで計15校、支援してきた。学校によって学習テーマは異なり、環境、防災、気象、地域共生、川、SDGsなど、多岐に渡った。芦口小学校では「環境」としてグリーンカーテンを育て、長命ヶ丘小学校では「地域共生」としてグリーンカーテンを広める活動を行った。多忙な学校での環境や防災の学習を継続して支援し、学校と外部をつなぐ役目を果たすことができた。



行動変容を促すプロセス

ストップ温暖化センターみやぎにおいて、SDGs 環境出前講話とSDGs教育プロジェクトは、現在、活動の大きな柱となっている。教育分野の中で児童生徒の行動を変容させるには時間がかかるが、学校と外部が連携をしながら進めていく必要がある。引き続き、持続可能な社会の創り手を育成するために二つの事業を深化・発展させていきたい。

持続可能な社会の創り手を育てる SDGs 環境出前講話×SDGs 教育プロジェクト

個々の活動を
詳しく報告！

「みやぎのSDGs環境学習支援」活動報告

<https://www.melon.or.jp/study/report/>



EPO東北 令和6年度事業総括

令和6年5月21日に第六次環境基本計画が閣議決定され、環境保全を通じた、現在および将来の国民一人一人の「ウェルビーイング／高い生活の質」の実現を目指すこと、地下資源依存から地上資源基調の経済社会システムへ転換することがビジョンとして打ち出し、「新たな成長」の概念が提唱された。世界が直面している気候変動、生物多様性の損失及び汚染という3つの世界的危機に対し、経済社会システムの変革と、環境収容力を守り環境の質を上げることによって、経済社会が成長・発展できる「循環共生型社会」を実現すること、「環境価値」を活用した経済全体の高付加価値化のためにスピード感とスケール感をもって「新たな成長」を実践・実装していくことを計画している。環境政策を起点とした、経済・社会的課題の同時解決をミッションとして掲げ、政府による環境教育、人的資本投資、中間支援組織の強化などが明記された。様々な政策の中で「中間支援機能」が注目されており、東北環境パートナーシップオフィスおよび東北地方ESD活動支援センターが持つべき機能、果たすべき役割について改めて見つめ直し、取組みの強化に向けた戦略が求められる。

【EPO東北】

●多様なテーマと連携・協働体制について

環境省の各課にEPOの存在が認知され、資源循環課や生物多様性保全室など、これまで連携の機会がなかった部署との事業連携が生まれた。これを受けてEPO事業で取り扱うテーマは地域循環共生圏を軸に脱炭素、生物多様性、サーキュラーエコノミー等、従来と比べて広範になった。全国EPO連絡会では他部署との連携にあたりEPOが持つ機能、役割についての認識不足が指摘されている。事業の複雑化、高度化も指摘されており、EPO東北が担う機能・役割についてPRするための発信のあり方は見直しが必要となっている。

令和6年度は新しい情報発信の試行としてメディア連携を進めてきた。今後も他分野及び専門家との連携・協働により、新しい視点を得ながら時代に即した事業展開が求められる。

●地域循環共生圏づくり

令和元年度から令和5年度まで実施した「環境で地域を元気にする地域循環共生圏プラットフォーム事業」の成果や経験を踏まえ、令和6年度から地域循環共生圏づくりの中間支援を行うことができる主体の育成を主目的とした「地域循環共生圏づくり支援体制構築事業」が開始された。地方環境事務所及び環境パートナーシップオフィスによる地方支援事務局は、地域循環共生圏づくりに取り組む活動団体と、取組みを伴走支援する中間支援主体の成長を支援する立場となり、事業に対応できる情報・知識・スキルの獲得と蓄積が大きなテーマとなった。参加団体※が取組み状況をどのように認知しているかを客観的に見つめること、本質的な課題を捉えて多角的・論理的に考える批判的思考の不足が反省点として捉えており、より一層のスキル向上が今後の課題となる。

※参加団体：P46参照

【東北地方ESD活動支援センター】

●ESD地域コーディネーター

東北独自の取組みとして「ESD地域コーディネーター」制度を導入して3年目を迎えた。令和6年度はESD地域コーディネーターが東北地方ESD活動支援センター事業に参画し、協働で事業実施に取り組むスタイルを試行した。地域の関係者に対する丁寧なアプローチとフォローをESD地域コーディネーターが担うことで、より重層的なネットワークづくりが推進できた。また、今後の事業展開を見据えた戦略を考えながら事業を実施することができた。現在は青森・宮城・福島の3県にESD地域コーディネーターがいるが、今後は岩手・秋田・山形でも同様の事業展開ができるよう、キーパーソンの発掘とネットワークの拡充が課題となる。

●東北ESD／SDGsフォーラム

令和6年度はESD地域コーディネーターが重要な主体を担いながら福島県只見町での開催に至った。地域住民の参加、東北地方ESD活動支援センターおよびEPO東北関係者の参加があり、住民に対して地域の取組を改めて発信ができたこと、関係者に東北地方ESD活動支援センター事業の発信ができたことは大きな成果と言える。一方で東北各地からの新たな層の参加はなく、リアルタイムでのオンライン配信では視聴者数も伸び悩んだ。これまで毎年実施形態を変えながらフォーラムを開催してきたが、情報収集および発信のスタイルが多様化する中で、改めてフォーラムの位置づけや役割、対象を見直し、東北地方ESD活動支援センターが何を提供できるのか、大きく見直す時期にきている。

●第7期に向けて

これまでに培ったネットワーク基盤を活用しながら新しい主体とも連携し、重層的なネットワークの構築に取り組んだ。地域リソースの活用、外部との連携、ESD地域コーディネーターとの連携・協働により活動の幅を広げ、また新しい運営のあり方を試行し、運営第7期に向けたノウハウの蓄積、課題の整理ができた。

一方で環境課題への対応はより緊急性を増し、環境政策を起点とした地域課題の同時解決性や取組みの推進に向けた中間支援機能への注目が高まっている。改めてEPO東北や東北地方ESD活動支援センターの担う役割を見直し、事務局に蓄積すべき技能を明らかにした上で習得に励むこと、事務局としての機能向上を図ることが運営第7期の課題となる。

EPO東北 令和6年度 事業報告

東北環境パートナーシップオフィス運営業務

(1) 事業検討委員会の開催運営等

委員	8名				
委員会	開催日		形式	開催地	内容
	第1回	5月27日(月)	対面を中心としたハイブリット形式	宮城県 仙台市	事業計画に対する意見聴取
	第2回	2月3日(月)			事業報告及び次年度の展望に対する意見聴取

(2) 基本業務

情報発信	Web サイト		随時更新、期間限定アーカイブ動画の配信			
	メールマガジン		月2回配信、臨時号1回			
	その他		みちのく薪びと祭りとりまとめ資料 PDF データを事業紹介ツールとして活用			
相談対応等	相談件数		69件			
	対話の機会数		88件			
	共催事業		1件			
	後援		0件			
	協力・活動支援		9件			
	委員協力		4件			
※対話の機会数：情報収集や合意形成等の目的で参加したセミナー・委員会・協働団体との会議等						
全国事業に関わる業務	開催日		形式	開催地	内容	
	全国 EPO 連絡会議	第1回	6月12日(水)～13日(木)	対面中心のハイブリット	東京都 渋谷区	各地方 EPO が共通で実施する事業について合意形成が行われた。
		第2回	10月1日(火)～3日(木)		富山県 富山市	EPO の協働をテーマにグループディスカッションを実施し、意識の共有化が行われた。
		第3回	1月16日(木)～17日(金)		東京都 渋谷区	次年度以降の事業運営に関する意見交換が行われた。
	協働取組の効果最大化に関する検討会議		9月20日(金)	Web 会議	-	地域での協働プロセス実践に対する理解を深めることを目的に意見交換が行われた。
	情報交換会		12月20日(金)	対面中心のハイブリット	東京都 渋谷区	EPO が様々なトピックについて勉強することを目的に話題提供と意見交換が行われた。
東北地方環境事務所との協働	開催日		形式	開催地	内容	
	事業運営会議	第1回	5月9日(木)	対面	宮城県 仙台市	業務の進捗について東北地方環境事務所と定期的な共有の場を設け、事業内容について意見交換を行った。
		第2回	7月10日(水)			
		第3回	9月2日(月)			
		第4回	11月5日(火)			
		第5回	1月24日(火)			
開館状況	【開館日数】238.5日、【来場者数】365人					
会議室の提供	【利用件数】111回、【利用者数】470人					
図書資料等の提供	【提供実績】37回、【収集資料】66件					

地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業

概要	①循環型社会形成推進基本計画は、循環型社会形成推進基本法に基づき、循環型社会の形成に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定めるもので、令和6年8月2日に第五次循環型社会形成推進基本計画が閣議決定された。取り組みの重要性の理解と社会実装に向けた学びの場を設け、地域内に波及させるための対話の促進を図った。 ②③脱炭素経営をテーマに多様な主体との連携によるセミナーを開催し、ネットワークの拡充を図った。				
催事	収録日	形式	開催地	-	内容
①セミナー動画 サーキュラーエコノミー - 循環基本計画と 東北の事例を知る -	1月21日(火)	対面中心	宮城県 仙台市	-	循環型社会形成推進基本計画の改正に伴い、サーキュラーエコノミーをテーマとするセミナーを収録し動画配信を行った。
	1月29日(水)	Web会議	-	-	
【動画配信】3ヶ月間の限定公開 3月1日(土)～5月31日(土)					
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
②セミナー 脱炭素経営に関する セミナー	12月3日(火)	対面	宮城県 仙台市	44名	金融機関および環境団体との協働により、宮城県内の中小企業経営者や環境部署担当者などを対象としたセミナーを環境ネットやまがたと共に開催した。
③セミナー 中小企業のための ESG金融・脱炭素経営 セミナー in 青森	1月17日(金)	Web会議	青森県 青森市	101名	R4年度に青森市・弘前市で、R5年度に八戸市で開催したセミナーのフォローアップとして支援した。

(3) 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

概要	令和6年度地域循環共生圏づくり支援体制構築事業において、活動に取り組む団体に対して支援を行う主体が必要な機能を獲得し、地域循環共生圏づくりの中間支援を実施できるようになるための支援を行った。
----	---

【採択団体】 東北 3 案件 / 全国 26 案件

活動地域	団体名		テーマ
	【中間支援主体】	【活動団体】	
岩手県 釜石市	一般社団法人ゴジョる	株式会社かまいしDMC	豊かな自然と地域の宝を未来へつなぐ旅 Blue-Green-Sustainable Journey 持続可能な観光プラットフォーム構築
宮城県 石巻市	一般社団法人 フィッシャーマン・ジャパン	一般社団法人もものわ	森と海を繋ぐ関係人口の創出と 持続的な環境保全活動の推進
山形県 西川町	西川町地域資源活用 イノベーション推進協議会	ツキノワ合同会社	雪室による地域産業のリブランディング

1) 中間支援機能の担い手育成

中間支援主体	定期 打合せ	ステークホルダーミーティング (活動団体主催)			
		開催日	形式	開催地	内容
一般社団法人ゴジョる	4回	1月13日 (月・祝)	対面	岩手県 釜石市	地域で活動する主要団体を対象とし、各団体の活動紹介と情報交流を行った。
一般社団法人 フィッシャーマン・ジャパン	7回	1月24日(金)	対面	宮城県 石巻市	プロジェクトのコアメンバーを対象とし、情報のインプットを行った上で地域ビジョンを議論するミーティングを行った。
西川町地域資源活用 イノベーション推進協議会	3回	1月31日(金)	対面	山形県 西川町	事業を担う地域のプレイヤーを中心に、地域おこし協力隊など若手を交えたワークショップを行った。

2) 会議等					
会議名等	開催日	形式	開催地	内容	
(1) 地方支援事務局（地方環境事務所、地方 EPO）が主催する会議					
キックオフミーティング	6月7日（金）	対面中心のハイブリット	宮城県 仙台市	活動のヒントや気づきを得ることを目的にキックオフミーティングを行った。	
中間共有会	9月12日（木）	対面	宮城県 仙台市	計画のブラッシュアップを後押しすることを目的に中間共有会を開催した。	
(2) GEOC が主催する会議等への参加					
中間支援主体 ギャザリング	第1回	5月30日（木） ～31日（金）	Web 会議	—	中間支援機能についてのインプットおよび中間支援主体による活動紹介が行われた。
	第2回	2月27日（木） ～28日（金）	対面	東京都	1年間の活動報告および参加団体同士の意見交換・交流が行われた。
共有会	5月15日（水）	Web 会議	—	年間計画、中間支援主体へのヒアリング結果を共有し意見交換が行われた。	
作業部会に向けた 意見交換会	8月27日（火）	Web 会議	—	EPO 間の情報共有の機会として設けられた有志会で、所感などを共有し作業部会に向けた意識合わせと意見交換が行われた。	
作業部会	第1回	9月4日（水）	対面中心の ハイブリット	東京都	グループディスカッション形式で事業の整理の仕方について意見交換が行われた。
	第2回	1月30日（木）			
事業検討会議に向けた 意見交換会	12月6日（金）	Web 会議	—	EPO 間の情報共有の機会として設けられた有志会で、事業検討会議に向けた意見交換が行われた。	
	12月17日（火）	対面	東京都		
事業検討会議	12月18日（水）	対面中心の ハイブリット	東京都	事業進捗に関する情報共有、次年度に向けた意見交換を行われた。	
有識者会議	第1回	7月18日（木）	（非公開）	—	事業の方向性や評価方法について意見交換が行われた。
	第2回	9月30日（月）	オンライン 視聴	—	事務局から出された成果を捉える視点の提案に対して意見交換が行われた。
	第3回	2月18日（火）	オンライン 視聴	—	各事業の進捗および実施報告に対して意見交換が行われた。
(3) 次年度事業の参加団体の審査委員会					
継続審査委員会	12月9日（月）	Web 会議	—	事業継続を希望する参加団体の継続審査を行う委員会を開催した。	
審査委員会	—	—	—	東北は3案件が継続のため新規募集なし（審査委員会の開催不要）。	
(4) 卒業団体のフォローアップ調査					
フォローアップ調査	日承循環合同会社（山形県鶴岡市）				
会議名等	開催日	形式	開催地	内容	
ヒアリング	2月4日（火）	Web 会議	—	取組み当時のことや現在の状況、今後の展開を確認するヒアリングを行った。	

(4) 地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会の開催【生物多様性】

概要	森里川海の恵みは自立・分散型社会を支える基盤であり、地域の身近な自然とステークホルダーをつなぐことは地域循環共生圏の創造に資するものであると捉え、身近な自然資本を活用した地域づくりに関するフォーラムおよび動画配信を行った。				
催事	開催日 / 収録日	形式	開催地	参加	内容
①フォーラム ピオトープフォーラム in 仙台 2024	6月14日(金)	対面	宮城県 仙台市	110名	ピオトープを通じた自然再生・環境保全などの活動紹介および生物多様性をテーマとする講演を行った。
②セミナー動画 ネイチャーポジティブ - 農林業と自然が紡ぐ、 持続可能な地域づくりの 可能性 -	1月19日(日)	対面	宮城県 仙台市	-	ネイチャーポジティブを地域の文脈に落とし込むヒントを探ることをテーマに、第一次産業に関わる主体を招致してパネルディスカッションを行った。
	【動画配信】 3月1日(土)～3月31日(月)				

(5) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化【東北独自】【みちのく薪びと祭り】

概要	森林の適正な管理をしながら間伐材等をエネルギーとして活用し、資源や人、経済の地域循環に取り組む小さなモデルに焦点を当て、関係者が相互に学び合う交流の機会としてみちのく薪びと祭りを開催した。「次世代の担い手」に焦点を当て、開催地の団体が運営主体を担うスタイルを試行した。				
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
キーパーソン会議	7月22日(月)	Web会議	—	16名	キーパーソンの近況を共有し、R6年度企画の意見交換を行った。
みちのく 薪びと祭り	10月14日 (月・祝) ～15日(火)	対面	宮城県 川崎町	約 200名	相互交流と学び合いを目的とし、東北内の薪に関する活動を行っている団体が一堂に会して活動の共有・情報交換・開催地の視察を行った。



地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 中間共有会 (R6/9/12)



ピオトープフォーラム in 仙台 2024 (R6/6/14)

東北地方 ESD 活動支援センター運営業務

(1) 地方活動支援企画運営委員会の開催運営等

委員	8名				
委員会	開催日	形式	開催地	内容	
	第1回	5月27日(月)	対面を中心とした	宮城県 仙台市	事業計画に対する意見聴取
	第2回	2月3日(月)	ハイブリット形式		事業報告及び次年度の展望に対する意見聴取

(2) 基本業務

情報発信	Web サイト	随時更新、東北の ESD 事例紹介を掲載		
	メールマガジン	月2回配信、臨時号1回		
	パンフレット	東北地方 ESD 活動支援センター及び地域 ESD 活動推進拠点の活動を紹介する活動レポート 2024 を作成した。 【地域 ESD 活動推進拠点】掲載：9 団体 【冊子】800 部		
相談対応等	相談件数	28 件		
	対話の機会数	48 件		
	共催事業	3 件		
	後援	2 件		
	協力・活動支援	4 件		
	その他（会議参加）	1 件		

ESD 地域 コーディネーター	学校教育関係の実践者等をコーディネーターとして配置し、ESD 実践に関心を持つ主体に働きかけ積極的に地域の取組みを支援することにより、ESD 活動の普及に努めた。				
	活動地域	氏名	備考		
	青森県	貝森毅彦氏	青森県地球温暖化防止活動推進員、元小学校校長		
	宮城県	内藤恵子氏	公益社団法人仙台ユネスコ協会副会長・ESD 推進委員長、元小学校校長		
	福島県	齋藤修一氏	元只見町教育委員会教育長		
	【定例ミーティング】				
		開催日	形式	開催地	内容
	第1回	5月28日(火)	対面	宮城県 仙台市	東北 ESD センターの事業計画、各コーディネーターの活動予定を共有し意見交換を行った。
	第2回	12月20日(金)	対面	宮城県 仙台市	企業の ESD をテーマにゲストスピーカーを招き、意見交換を行った。
	第3回	12月21日(土)	対面	宮城県 仙台市	ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会児童生徒の探求型学習・課題研究発表へ参加し、ESD 実践校の事例を学んだ。
	第4回	3月27日(木)	対面	宮城県 仙台市	2024 年度の活動共有会を行った。

(3) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供【ESDfor2030 学び合いプロジェクト】

概要	気候変動時代の ESD を促進するために、ESD 推進ネットワークで注力する気候変動を切り口とした学び合いの機会を提供することを目的とした「ESDfor2030 学び合いプロジェクト」を企画した。実施にあたっては ESD 地域コーディネーターと協働し、市民施設において気候変動を啓発するプログラム作成のノウハウやプロセスの整理に取り組んだ。					
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容	
勉強会	第 1 回	9月21日(土)	対面	宮城県 仙台市	18名	市民センタースタッフを対象に「SDGs 市民講座」の作り方を考える講座を開催した。
	第 2 回	10月8日(火)	対面		12名	企画を組み立てるワークショップを実施した。個人ワークを行いながら学びを深めた。
	第 3 回	10月29日(火)	対面		12名	グループワークで企画を考えるワークショップを実施した。
企画 打合せ	①	11月9日(土)	対面	7名	実践活動として実施する防災講座の企画	
	②	11月23日(土)	対面	6名	フォローアップを行った。	
実践活動	2月1日(土)	対面		66名	市民センタースタッフ・地域関係者が企画した講座「防災・減災を学ぼう」を実施した。	
意見交換会	3月13日(木)	ハイブリット 会議	-	15名	プロジェクト関係者で実施内容を振り返り、成果と課題を整理する意見交換を実施した。	
作業部会	第 1 回	7月25日(木)	対面	東京都 渋谷区	53名	各地方センターの進捗状況の共有を行い、プロジェクトに対して専門家からご意見をいただいた。
	第 2 回	2月25日(火)	対面	東京都 渋谷区	35名	各地方センターが今年度のプロジェクト実施報告を行い、今後の気候変動教育について意見交換を行った。
活動の報告	12月1日(土)	対面	東京都 渋谷区	134名 オンライン 58名	ESD 全国フォーラムのポスターセッションに参加し、学び合いプロジェクトの発表を行った。	

(4) 東北 ESD/SDGs フォーラムの開催

概要	福島県只見町においてホールエリアで取り組む ESD をテーマに取り上げたフォーラムを開催した。企画運営においては地域 ESD コーディネーターとの協働によって地域の多様な主体の巻き込みを図り、只見伝承製品の体験活動を実施した。また、只見町 ESD 公開授業研究会の同時開催とした。				
東北 ESD/SDGs フォーラム 2024in 福島只見					
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
フォーラム ホールエリアとしての ESD の推進を目指して	11月14日(木) ～15日(金)	ハイブリット 会議	福島県 只見町	会場 90名	1日目に只見伝承製品の体験活動を実施し、2日目にフォーラムを開催した。気象予報士による基調講演の他、只見町の工場や農園、公民館、伝統工芸など地域の様々な主体による取組紹介を行った。
	【動画配信】12月26日(木)～1月31日(金) 【視聴回数】55回				

(5) 地域 ESD 活動推進拠点等の ESD 活動の支援

概要	地域 ESD 拠点等との間で情報共有やイベント協力等の連携を図ることにより、地域における ESD 活動を支援した。また、地域 ESD 拠点の ESD 活動を広く発信する目的で PDF パンフレットを作成してウェブサイトに掲載し、「活動レポート 2024」を発行した。
登録数	東北 21 件 前年比±0 件 / 全国 199 件 前年比+2 件

(6) ESD 研修会【東北独自】

概要	ESD 地域コーディネーターとの連携・協働により、地域における ESD 活動の推進を目指して ESD 研修会を開催した。				
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
ESD 研修会① ゲストティーチャーに 聞く気候変動の影響	9月18日(水)	対面	青森県 青森市	70名	青森市立堤小学校の6学年を対象にリンゴ農家・ホタテ漁師・種苗店の方に気候変動の影響を学ぶ授業を実施した。 ※昨年度事業フォローアップ
ESD 研修会② 会津若松市立第六中学校 SDGs 授業	12月3日(火)	対面	福島県 会津若松市	95名	1～3年生の生徒を対象に、SDGs の基礎知識を学び自分たちの普段の行動と結びつける授業を実施した。
ESD 研修会③ ゼロカーボンに向けた ユース活動の 意見交換会	3月7日(金)	ハイブリット 会議	—	22名	青森県、岩手県の環境活動・ゼロカーボンに向けた活動を行うユース(高校生・大学生)の意見交換会を実施した。

(7) 全国センターとの連携協力の推進等

概要	全国センターが実施する意見交換会及び企画運営委員会に参加した。また、全国センターの求めに応じて情報提供や資料作成・提供、ESD 推進ネットワーク活動状況調査等に積極的に協力・対応した。				
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
ESD 推進ネットワーク 全国フォーラム	12月1日(日)	対面	東京都 渋谷区		ESD に関する最新の動向を共有し、各地の実践事例を学ぶ機会としてフォーラムが開催された。
ESD 活動支援 センター連絡会	第1回	対面中心の ハイブリット	東京都 渋谷区		各センターの事業予定を共有し、事業評価について議論が行われた。
	第2回				R6年度の活動状況を共有し、次年度の方向性について議論が行われた。
ESD 活動支援センター の今後の方策を考える意 見交換会	7月25日(木)	対面	東京都 千代田区		行政レビュー後のとりまとめコメントおよび環境教育の取組に関する指標の検討会について共有し、意見交換が行われた。
全国協力団体 意見交換会	第1回	対面	東京都 渋谷区		ESD に関する最新動向についての話題提供があり、参加団体同士の交流が行われた。
	第2回	—	—	—	※第2回はESD 推進ネットワーク全国フォーラム(2/1)として実施
全国センター 企画運営委員会	第1回	Web 会議	—	—	全国センターの事業計画及び事業報告に対する意見聴取が行われる企画運営委員会を傍聴した。
	第2回	Web 会議	—	—	

(8) その他

概要	青森県ユネスコ協会から相談を受け、青森県内の5つのユネスコスクール(キャンディデート校3校含む)のネットワーク化を図る目的で、ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムと共に青森県ユネスコスクール連絡協議会設立準備委員会に協力し、構成組織として参加した。				
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
設立準備委員会	8月9日(金)	対面	青森県 野辺地町	8名	連絡協議会設立に向けて、青森県ユネスコ協会が構成組織を招集し準備会が行われた。
設立総会	1月9日(木)	対面	青森県 八戸市	13名	連絡協議会の設立総会が開催され、協議会の要綱の検討、事業計画の確認が行われた。

その他 企業等との協働事業

(1) (独) 環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携

概要	環境再生保全機構地球環境基金との協定に基づき、情報共有や意見交換、事業連携を行った。地球環境基金は 1993 年の創設から 30 年が経過する。地域の課題や活動実態の把握、今後の支援策の検討が行われており、本年度は東北地区で意見交換の場が設けられた。				
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
地球環境基金主催 EPO 連絡会	7月22日(月)	対面	神奈川県川崎市	38名	2025年度助成金の募集や地域課題調査等のパイロット事業について意見交換が行われた。
東北地区高校生 SDGs セミナー	8月1日(木)	対面中心のハイブリット	宮城県仙台市	18校	東北6県の高校18校が参加し、基調講演とワークショップ型の意見交換が行われた。
2025年度地球環境基金助成金説明会(東北地区)	10月28日(月)	Web会議	—	45名	地球環境基金の概要、助成メニューの紹介、助成団体からの話題提供を行った。

(3) マレーシア・サバ州 Sustainable 海洋プロジェクト

概要	地球環境基金の助成を受けて(一社)あきた地球環境会議が実施するプログラムで、サバ州と日本の高校生を対象に環境リーダーを育成することを目指し、プラスチックごみに関する現地調査及び啓発、海洋保全をテーマとした環境教育が行われた。EPO 東北は会議構成員として参画し、現地プログラムに対する運営協力を行った。	
実施期間	令和5年度～令和7年度	
マレーシア訪問	渡航期間	2024年7月29日(月)～8月8日(木)
	内容	①表敬訪問 ②現地視察および調査 ③環境教育の実践(6校) ④海洋生態系と環境問題に関する研修 ⑤ワーキングチーム会議
日本来日	来日期間	2025年1月21日(火)～28日(火)
	内容	①表敬訪問 ②ワーキングチーム会議 ③環境保全取組・環境教育視察



ESDfor2030 学び合いプロジェクト 勉強会第1回 (R6/9/21)



東北 ESD/SDGs フォーラム 2024in 福島只見 (R6/11/15)